



他者の評価

昨年の浦島伝説No.23で「自己評価と他者評価」を紹介しました。詳しい内容をもう一度載せておきます。1年生の学年団集会でこんな話をしました。みんなが評価を受けるとき「詫間中学校の〇〇さん」「1年〇組の□□さん」「□□部の△△さん」みなさんの行動には、大きな責任を伴っているのです。良い行いをした時は、学校全体や学年全体、学級全体が良い評価を受けます。しかし、その反対の時はひとりの行動で全体を悪く評価されるのです。さて1ヶ月たった詫間中学校や学年団、各学級、各部活動は、保護者や地域の方からどのような評価を受けているのでしょうか???

連休期間中のみなさんの言動で詫間中学校が評価されることを忘れずに過ごしましょう。

1. 自己評価と他者評価のズレ

評価とは一般的に、できるできないといった能力的側面や良い悪いといった価値的側面などについて判断をすることです。また、自分で自分を評価することを自己評価、他人が自分を評価することを他者評価と言います。評価は客観的な指標のみでなされるものではないので、自己評価と他者評価が完全に一致することはありませんが、多少のズレがあったとしても納得のいく範疇であれば、評価のズレに関して問題になることはないと思います。

2. 評価のズレを埋める

評価のズレを埋めていく時に、自分に対しても他人に対しても、いきなり評価を変える/変えさせるというのは難しいと思います。評価はその対象となる出来事の積み重ねで形作られるので、評価を変えていくためには同じように出来事を積み重ねていく必要があるからです。

3. 評価は自他を理解すること

評価は必ずしも優劣や価値を判断することに限られるのではなく、自分や相手に対する理解を表すものでもあると思います。したがって、自己評価や他者評価を掘り下げていくことは自分や他者が自分のことをどう理解しているかだけではなく、自分や他者がどんな特徴を持っているのかを知ることにもつながるのではないかと思います。

4月13日(土)にレクザムボールパーク丸亀での出来事をご紹介します。その日は、香川県高校野球春の大会の準々決勝でした。高松商業の長尾監督と会う約束があったため、早めに球場について周辺を散歩していました。高松商業野球部の部員も数グループに別れて朝の散歩していた時のことです。3名の野球部員が近くの小川を眺めながら何やら話していたので声をかけてみました。

大 前「おはようございます。ミシシippアカミミガメがいるんですか？」

野球部員「はい。おはようございます。たくさん甲羅干しをされていて驚きました。」

大 前「球場の向こう側の水路にはもっと大きいのがたくさんいましたよ。」

野球部員「そうですか。ありがとうございます。」

大 前「今日の試合頑張ってくださいね。」

野球部員「はい。ありがとうございます。頑張ります。」

※試合は、13-0で高松商業が勝ちました。四国大会にも出場し、明日が四国大会決勝戦です。

この会話を聞いていた通りすがりのお年寄りが私に「やっぱり、強いチームの子は、受け答えもしっかりしとるな～」と笑顔で話しかけてきました。わずか数分の出来事でしたが、高松商業野球部の3名の対応で他者の評価があり、チーム全体が褒められたのです。また、応援してくれる人も一人増えたことは間違いありません。詫間中学校もみなさんの言動で応援してくれる地域の方を一人でも多く増やしていきたいと思います。応援団は、多ければ多いほど勇気づけられるものです。

